

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスあんじゅしゅしゅ			公表日		2025年 12月 5日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		1室をロールカーテンで仕切る等の工夫や2グループに分けて外と中で分散することで広く使えている。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・基準を満たし加配もついている。 ・配置人数が増えることでより個別対応（特性に応じた支援）が行えると思われる。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		一部がなっていない点もあるが視覚的な配慮を行っている。 絵カードでスケジュールを児童にも分かり易くしている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日、消毒と清掃を行っている。空間を仕切られるようにロールカーテンも利用している。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		落ち着くための場所や静かな環境として大人付き添いの下ではあるが事務所も使用している。	必要に応じて職員と一緒に事務所も使い気持 ちの切り替えに利用する。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		3カ月に一度の業務改善会議の他、毎朝のミーティングにて話し合いの場を設けている。	日常の業務についてもう少し話せる場がある と、より具体的な目標などを立てられるとお もわれる。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		ガイドラインの他、計画書作成にまつわるニーズの聞き取りシート等を通して意向の把握に努めている全員で周知し必要時対策をしている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		3カ月に一度の業務改善会議の他、毎朝のミーティングにて話し合いの場を設けている。個別の相談を受け行っている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	利用したことがない。	第三者の外部評価は難しいが地域マネー ジャーに訪問頂き業務改善につなげる。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月（年10回）の施設内研修の他、資格取得に関する研修、適宜外部研修の機会が確保されている。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		静と動の活動を織り交ぜて作成し、気持ちの切り替えのメリハリがつくようにしている。個々のアセスメントに沿ってプログラムを作成している。 又、ブログ等での周知も行っている。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		5領域の分野、家族支援、移行支援等の項目に沿って行い、保護者様にもアセスメントを公表し一緒に行っていたき計画書の制作を行っている。2025年よりアセスメントツールを導入8コ三）し、専門的に行えるよう努めている。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・全職員で計画書を周知するようにしている。（回覧もしている）又、主任は会議にも参画している。・日々全体で個人の情報共有を行い計画書は全員で目を通し実施。	・共通理解を更に深める為の機会が日常的に （週に1度10分程度）あればと思う。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		共有はしているが再周知を都度図り、切れもなく支援が出来るように工夫は必要と考える。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		ガイドラインを基にしたアセスメント用紙を作成し日常の様子、家庭の様子も踏まえて行うように努めている。2025年よりアセスメントツールを導入8コ三）し、専門的に行えるよう努めている。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		主には本人支援に重点を置き作成している。目標も5領域から抜粋したものを「具体的」「短期」「長期」に分けて作成している。会議内での確認及びアセスメントツールも用いて取りこぼしの内容に行っている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・アセスメントを行ったうえで主任と相談して行っている。又、静と動の活動を織り交ぜる等の配慮も行っている。・週案の設定を持ち回りで行う。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・主任と筆頭に週案を作成し努めている。 ・週案のバランスを最終確認で工夫。				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		行っている。				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝のミーティングや施設内ラインにて情報共有と相談をして支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・タ方のミーティングや施設内ラインにて情報共有と相談をして支援を行っている。・共有漏れがないよう文面での共有がされている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		保護者様との情報共有の連絡用紙とパソコンで残す支援記録がある。特筆すべきことは児発管管記録にも記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		基本6カ月に一度のモニタリングとしている中、児童の状況に応じ6カ月よりも短いスパンで行う時もある。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	2	保育園、保護者との会議には理解している者が参加している	上限管理事業所にはなっていない為、担当者会議はないが関係機関との連携は理解したものが参画している。今後、サービス担当者会議が行われる際にも児童の状況を理解しているものが参画するように整えている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		主に幼稚園や保育園の担任と、対応の難しい児童に対して情報共有、支援を行うことに努めている。訪問に来ていただく場合もある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		児童の状況に応じて併行利用、当事業所の利用も踏まえて取り組んでいる。伝達シート等を作成し保護者様ご了承のもとで支援計画や伝達シートで情報共有も行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	情報共有用紙を用いて行っている。	当事業所での情報提供を行い相互理解に努める。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	-	-		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-		
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-		
	31	(31は、事業所のみ回答)	6	1	障害児地域支援マネージャーの方の訪問の際などには相談させて頂いたりしている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・今後の課題である。・図書館へ本を借りに行くという取り組みを行っている。	天気が良いときは公園へ行き地域の子供とも一緒に遊ぶように心がける。又、地区センターでの催しにも出来るだけ参加し交流を図る。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎の際に伝えあうことが多い。又、お求めに応じて事業所にお越しいただいたり、ご自宅へ訪問も行っている。・送迎時対面にて実施。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	・今後の課題である。・家庭より問い合わせがあった際に、様々な選択肢の情報を伝えている。外部研修や説明会の情報提供も行っている。	今後、どのようにしたら開催できるかを考えていく。
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		重要説明書に則り説明に努めている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		ご家族へは普段の会話の際に意向の聞き取りの他、ニーズシート（アセスメントシートと共に）での聞き取りも行っている。児童へは療育の際に聞き取るようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・状況に応じて行う事に努めている。・すぐに対応し家族が必要とする時間をかけている（送迎時間等を理由に断ったりせず丁寧に）	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	今後の課題である。	駐車場や保護者さんの仕事の都合等を踏まえた上で、どのようにすれば開催出来るかを考えていく。

説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		普段からご意見の聴取の他、本ガイドラインで伺ったことに関しては回答をするようにしている。必要時対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1度のおんじゅだより（紙媒体）の他、ホームページへの掲載、毎日ブログ（アメーバ・フェイスブック）にて日々の活動の報告を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		知りえた情報は口外しないこととしている。又、必要な場合（他事業所との連携や園との連携時等）も想定できるので個人情報取扱い同意書を用いて同意を得ている。ブログ等では顔の判別がつかないようにしている。直類もフルネームの記載は控えている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		文字を大きくしたり、ペグスにて配慮を加えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	招待はオープンした時しかないが事業名を出して地域の行事に参加したことはある。地域の方からプランターの差し入れを受ける等、町内会に入会していることから活動は一部住民は知ってもらっている。	児童主体の行事がほとんどの為、今後、何が出来るかを考えていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		契約時及び就業開始時にお伝えしている。又、年4回（1か月に2回×2）避難訓練を行っている。各マニュアル策定及び待直しを行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・管理者主導の下行っている。 ・避難訓練は年2回実施。 ・適宜、見直しも行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時のフェイスシートにて伺っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	アレルギー表を頂き医師から保護者、保護者から事業所にて対応をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		管理者主導の下行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		管理者主導の下行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		取り組んでいる。発生時の状況、その後の対策や経過、方針等全職員で確認できるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		事業所内研修（年2回）と随時の施設外研修に参加するようにしている。委員会を設置し毎月、虐待防止のために努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		重要説明書に詳細を記載し計画書内には簡易的ではあるが記載している。契約時に説明を行っている。	